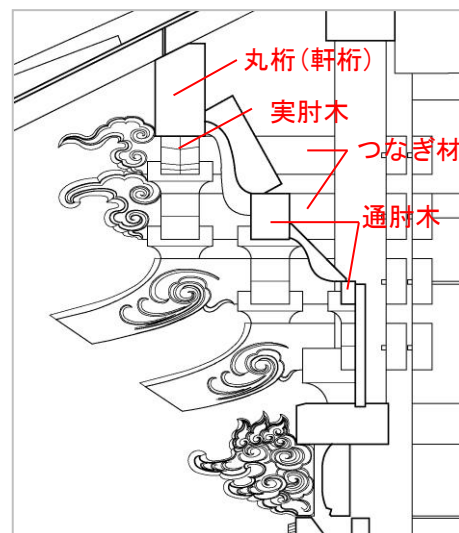


修理工事こぼれ話②④ 楼門の当初番付（斗拱組の番付編）

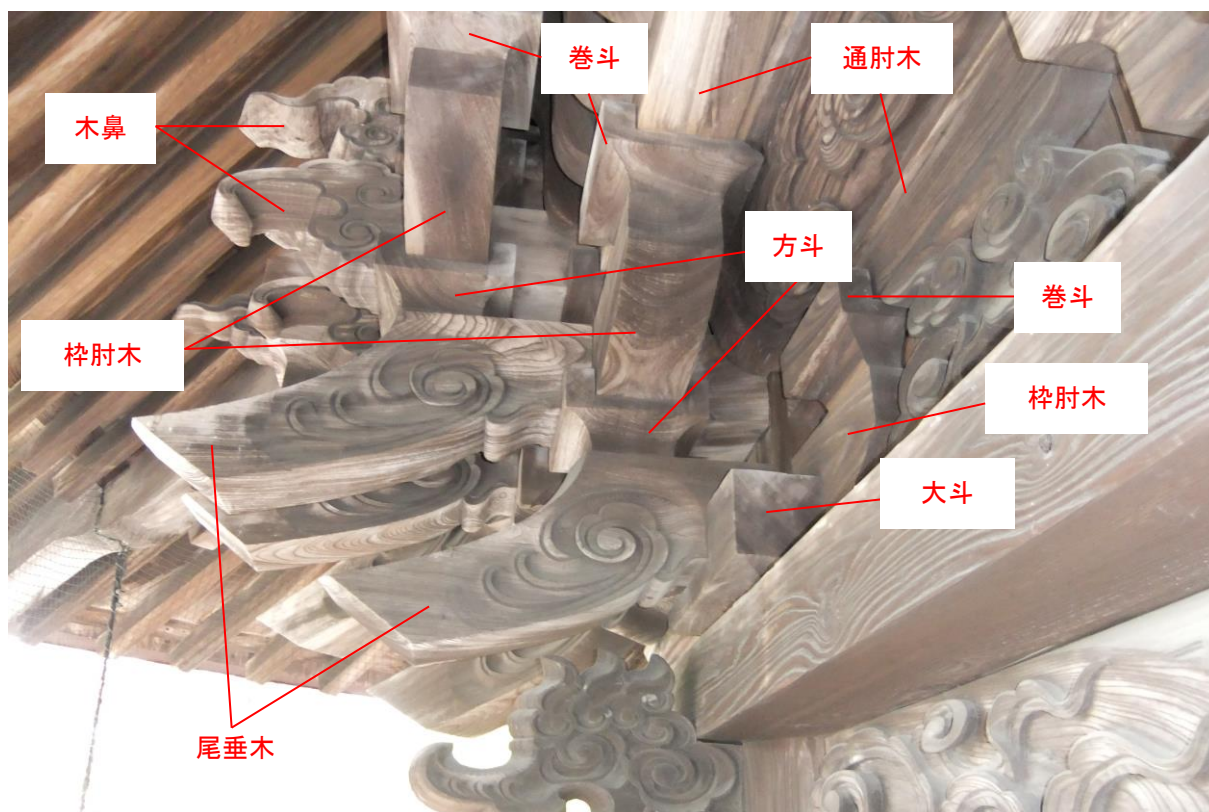
前回のコラムでは、当初番付（とうしょばんづけ）のうち柱と小屋束（こやづか）の番付を紹介しました。発見された当初番付の墨書（ぼくしょ）はほかにもあり、斗拱組（ときょうぐみ）の番付墨書も全体像がわかるほどの量が発見されました。今回のコラムでは、斗拱組の当初番付を紹介いたします。

1. 斗拱組とは

斗拱組とは、柱の上にある丸桁（がぎょう）や軒桁（のきげた）と呼ばれる部材を支える部分を言います。阿蘇神社楼門ですと、下層内側と上層では柱と柱の間にも斗拱組が設けられています。斗（ます）と肘木（ひじき）・尾垂木（おだるき）・木鼻（きばな）*と呼ばれる部材の組み合わせで構成されており、斗・肘木は位置や形によって、大斗（だいと）・卷斗（まきと）・方斗（ほうと）・鬼斗（おにと）、枳肘木（わくひじき）・実肘木（さねひじき）・通肘木（とおしひじき）などの種類に分けられています。ちなみに、「斗拱組」という語の「拱」は、肘木を表しています。また、斗拱組は組物（くみもの）とも呼ばれます。



楼門上層 斗拱組周り断面図



楼門上層 斗拱組周り

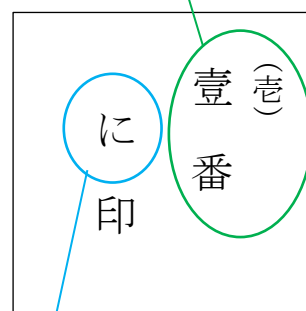
2. 斗拱組番付

斗拱組番付の墨書は、肘木・尾垂木の上面や巻斗の上下面、木鼻やつなぎ材の取り付け面などに書かれていました。そして、書かれている番付墨書は、表している内容が2種類ありました。1つは建物の中でどの位置にある斗拱組かということであり、もう1つはその斗拱組の中でどの位置にある部材かということでした。



楼門上層 巻斗下面

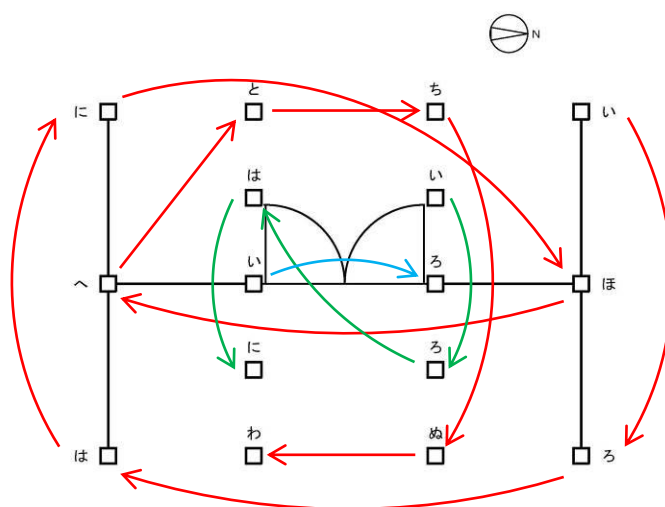
斗拱組が建物の中でどの位置にあるかを示す番付



斗拱組の中でどの位置にあるかを示す番付

①斗拱組が建物の中でどの位置にあるかを示す番付

建物の中でどの位置にある斗拱組か、という番付墨書は、下層・上層ともに前回のコラムで紹介した柱番付が使われていました。上図の「楼門上層 巻斗下面」の「壹番」と書かれた番付墨書は柱番付です。また、上層には柱と柱の間に斗拱組が差し込まれる太い束の番付（「イノ壺、イノ式…」と続く番付）もありましたが、その番付も使われていました。一方、下層では、柱番付のほかに「いろは…」でも番付が振られていました。「いろは…」で振られたこの番付の規則性ははっきりとはわかりませんが、下図のようになるのでしょうか。また、これらの番付は、斗拱組の中の様々な部材に書かれていました。



楼門下層斗拱組 当初番付

「いろは…」で建物の中でどの位置にあるかを示した番付

赤矢印：外側の柱上 斗拱組の番付

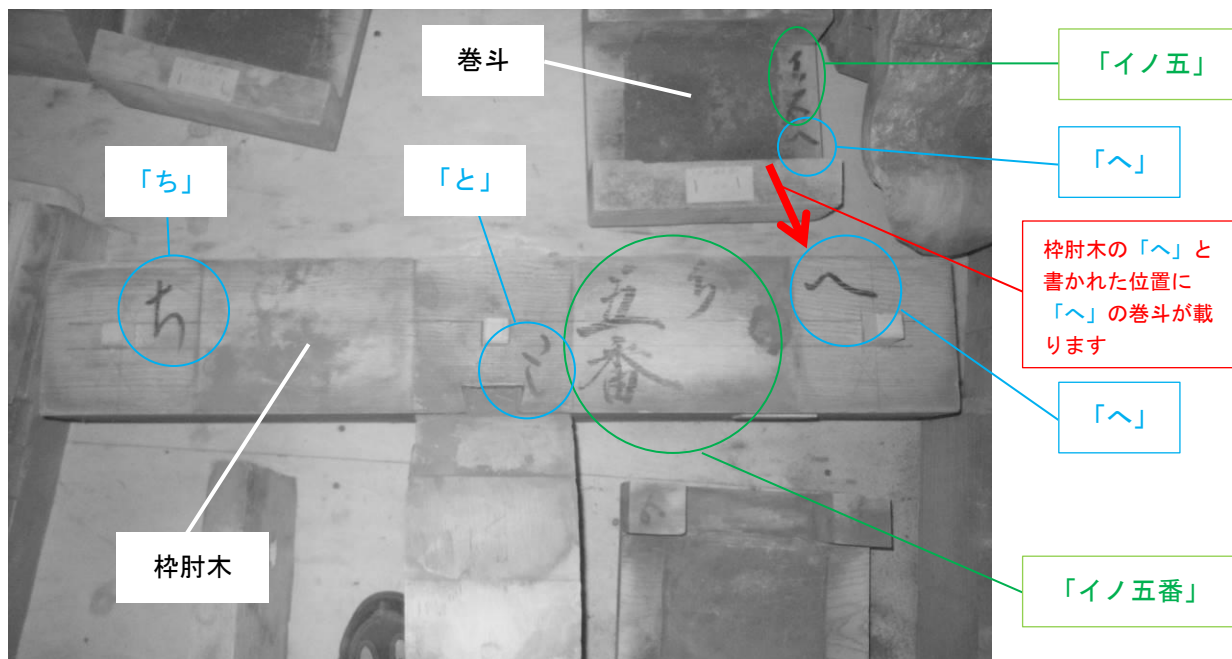
青矢印：内側の柱上 斗拱組の番付

緑矢印：柱に載らない斗拱組の番付

②斗栱組の中でどの位置にあるかを示す番付

その斗栱組の中でどの位置にある部材か、という番付墨書は、下層・上層ともに卷斗と木鼻、肘木と柱をつなぐ材（つなぎ材）の位置を示したものでした。

卷斗の位置を示したものは、下層は全て漢数字で振られ、上層はほとんどの箇所が「いろは…」であり、1箇所漢数字で振られていました。下層も上層も、下のものから上に向かって順に振られていますが、同じ高さの卷斗は斗栱組によって番付が振られる順番が異なりました。



楼門上層 梓肘木・卷斗 上面

梓肘木の「へ」と書かれた位置に「へ」の卷斗、
「と」と書かれた位置に「と」の方斗、
「ち」と書かれた位置に「ち」の卷斗が載ります。

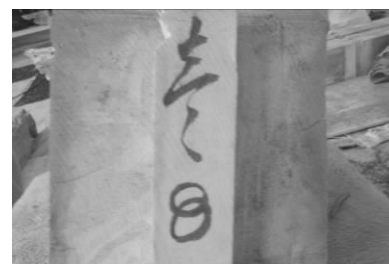
木鼻とつなぎ材の位置を示した番付は、下層内部のものは漢数字のみで振られていましたが、下層外部のものは漢数字と絵、上層のものは絵のみによって番付が振られていました。このように絵によって振られた番付のことを絵番付（えばんづけ）と呼びます。



丸1つ



横に丸2つ



縦に丸2つ



丸3つ



三角形



逆三角形



長方形



横長の台形



縦長の台形



いびつな四角形



縦棒2本



数字の「11」のような縦棒



縦棒2本に横棒1本



バツ



星



丸に横棒



四角形に横棒



目と鼻

※絵番付の上にならば漢数字やひらがなは、斗栱組が建物の中でどの位置にあるかを示す番付です。

ただし、縦棒2本に横棒1本の絵番付の上にならば「に八」は、「に」が主に建物の中でどの位置にあるかを示す番付で、「八」が絵番付とともに斗栱組の中でどの位置にあるかを示す番付です。

以上、斗栱組番付を見てきました。前回の小屋束と同じように漢数字やひらがなを使って部材の位置を示しつつ、目と鼻の絵番付のような大工さんの遊び心としか思えないようなものもありました。斗栱組は同じ形の部材を何個も重ねて作られています。取り付ける箇所を間違えないよういろいろと番付の振りかたを考えながら、楼門が建てられていったのでしょう。



木鼻が取り付く側も
もちろん目と鼻になっています

*斗栱組の木鼻は、握り拳の形に似ていることから拳鼻（こぶしばな）と呼ばれることが多いですが、阿蘇神社楼門の斗栱組木鼻は握り拳に似た形ではないため、木鼻と呼んでいます。

(石田 陽是)